

ボッチャ

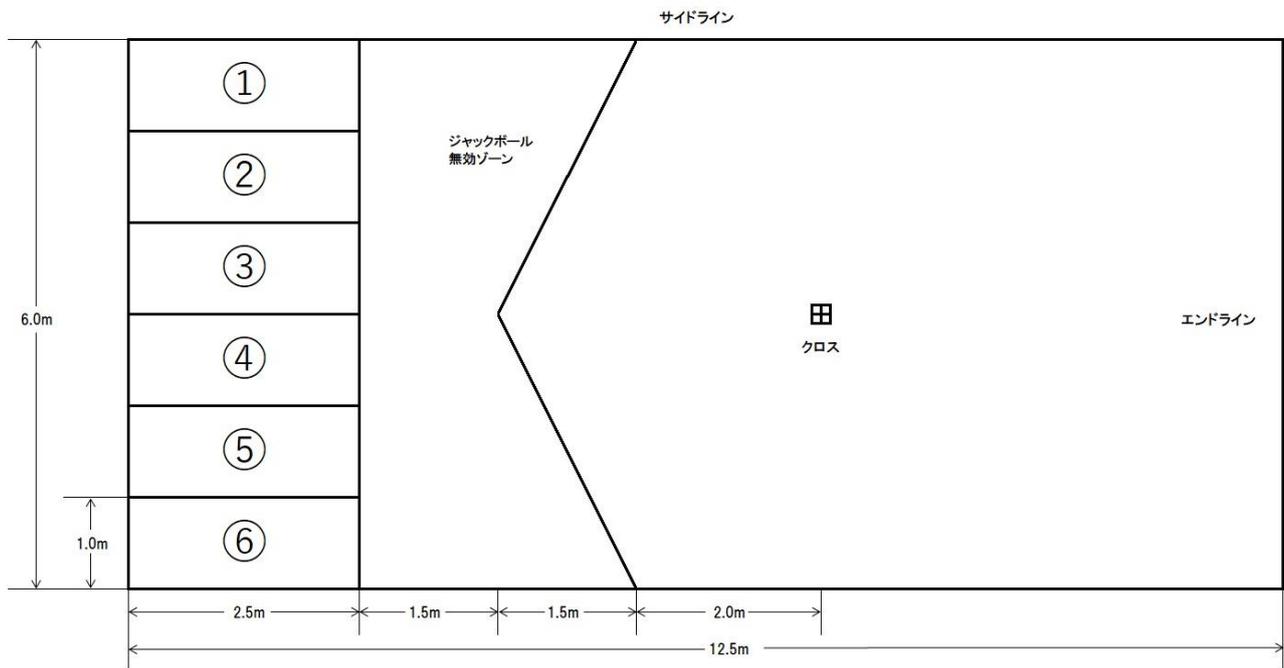
バドミントンコートと同じくらいの広さのコートで「ジャックボールと呼ばれる白いボール(目標球)に、赤・青のそれぞれ6球ずつのボールを投げ、いかに近づけるかを競うスポーツ」です。



◎ 用具

- ◆ ボッチャ専用ボール (赤6・青6)
- ◆ ジャックボール (白1)
- ◆ ライントープ
- ◆ 巻き尺
- ◆ 得点記入用紙・筆記用具・バインダー

◎ コート



競技は、縦 12.5m×横 6m のコートで行われます。選手は縦 2.5m×横 1m の「スローイングボックス」内でプレーをします。個人戦はボックス③④ (③が赤、④が青)、ペア戦ではボックス②～⑤ (②④が赤、③⑤が青)、チーム戦ではボックス①～⑥ (①③⑤が赤、②④⑥が青) を使用します。

◎ 人数

シングルス及びダブルスがあります。

ゲームの進め方

- 両選手（ペアやチーム）が6個ずつのボールを使用します。
試合開始となる第1エンドは常に赤ボールが先攻となります。以降、偶数エンドは青ボール、奇数エンドは赤ボールが先攻です。
コイントスで勝ったチームが先攻か後攻かを選択します。
- 先攻側が的となるジャックボールを投げ、続けて1投目の投球を行います。（ジャックボールがジャックボール無効ゾーンに止まった場合は、相手側にジャックボールを投げる権利が移ります。）
- 後攻のチームが自分のカラーボールを投げます。
- 以降、ジャックボールからより遠い位置にボールを投げた側の選手がその次の投球を行います。
- 赤、青ともに6球ずつを投げた時点で得点を計算します。（1エンド終了。ジャックボールにもっとも近いボールを投げた側に、相手側よりジャックボールに近いボール1個につき1点が与えられます。）
- 前のエンドで後攻だった側が先攻となり、3～6を繰り返します。
- 個人戦とペア戦では4エンド、チーム戦では6エンド終わったら合計得点で勝敗が決まります。
- 合計得点と同じだった場合、タイブレークが行われます。

試合の流れ

ポッチャはどれだけボールを的に近づけることができるかを競うシンプルなルールです。ここではどのように試合が進むかを説明します。

1 両選手（ペアやチーム）が6個ずつのボールを使用します

A選手  試合開始となる第1エンドは常に赤ボールが先攻となります（以降、偶数エンドは青ボール、奇数エンドは赤ボールが先攻）

B選手 

2 先攻側が的となるジャックボールを投げ、続けて1投目の投球を行います

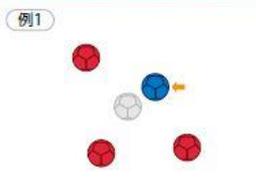
A選手  最初にジャックボールを投げます

A選手  続けて自分のボールを投げます

3 後攻側が最初の投球を行います

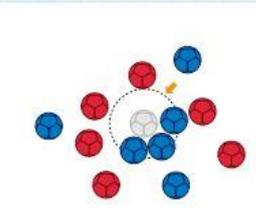
B選手  後攻側がボールを投げます

4 以降、ジャックボールからより遠い位置にボールを投げた側の選手がその次の投球を行います

例1  青の方がジャックボールに近いので、次は赤側の投球となります

例2  赤の方がジャックボールに近いので、次は青側の投球となります

5 赤、青ともに6球ずつを投げた時点で得点を計算します

 エンド終了時、ジャックボールにもっとも近いボールを投げた側のみ得点が入ります。相手側のジャックボールにもっとも近いボールよりも、ジャックボールに近いボール1個につき、1点が与えられます。

青の方が赤よりも3つジャックボールに近いので、3点が入ります。

この一連の流れを1エンドとし、個人戦とペア戦は4エンド、チーム戦は6エンドを行います

7 ©日本パラスポーツ協会 8 ©日本パラスポーツ協会

「この内容については、(一社)日本ポッチャ協会・(公財)日本パラスポーツ協会の資料を参考に掲載しています。」